

町立病院 利用実態把握へ

中標津 町民アンケートを実施 町議会特別委 運営委員と懇談

【中標津】町立中標津病院の財務改善や医療スタッフの安定的確保に向けた調査を行う、町議会の「病院の近未来を検討する特別委員会」(鈴木克弘委員長、7人)は21日、町役場で第4回の会合を開き、町の諮問に基づき病院経営に提言する町民らでつくる運営委員会のメンバーと懇談した。

同病院の経営は厳しく、2016年度には町の一般会計から15億2856万円を繰り入れている。鈴木委員長は6月に西村種町長や丁子清院長と懇談し、常勤医の不足や病床利用率の低迷など同病院が現在抱える課題を確認したと報告。運営委員会の実施状況などの聞き取りを行った。

運営委員からは「チェック機能である議会が経営改善に向け、厳しい目を向けることが必要」「病院の悪口を言うだけでなく、問題意識を共有することが大切」との意見が出た。鈴木委員長は「解決には時間がかかる。運営委員会を後押ししながら、町民間に病院を応援するという機運を高めていきたい」と述べた。

特別委員会では、同病院の利用実態や要望を把握するため、町民向けにアンケートを実施する。アンケート用紙は町内会や商工会、農協などを通じ、随時配布される。8月中旬に集約し、実態把握や改善策の検討に役立てる。

(古谷智也)

臨書、漢詩… 個 道書道協会根室地

【根室】北海道書道協会根室地区連合会(越野純樹会長)の第20回会員展が21日、市総合文化会館多目的ホールで始まった。

羅臼町を除く管内4市町で年一回、持ち回りで開いている。

今回は会員51人が写経や臨書、漢詩などを一点ずつ出展。繊細な筆遣いのかな文字や力強い漢字が訪れた人の目を引いている。越野

会長は「会員の活動成果をぜひ見てほしい」と来場を呼びかけている。23日まで。22日は午前9時～午後5時、最終日は午前9時～午後4時まで。入場無料。

(今井裕紀)



【羅臼】町内の清涼飲料水製造「らうす海洋深層水」(宗形卓社長)は、水の宅配事業などを行う広島市の「ウォーターポイント」(小早川克史社長)と、羅臼産の海洋深層水を使ったペットボトル入り飲料水「laus+」(ラウスプラス)を開発し、31日から全国

のドラッグストアなどで販売する。マグネシウムを多く含んだ栄養機能食品で、付属の羅臼昆布をボトルの水に入れるとまろやかな味が楽しめる。

(長峯亮)

羅臼産 31日全国発売 付属昆布でまろやかに

ラウスプラスは、羅臼沖約2・8m、水深350m級の深層水を使用。硬度1000と極めて「硬い」水で、マグネシウムを豊富に含む。付属の羅臼昆布を入れると、コンブのうま味成分「アミノ酸」が溶け出し、硬水の水のキレのある口当たりがまろやかに。深層水は塩分を含んでいるため、熱中症対策にも効果が見込めるという。

宗形社長は「羅臼昆布の良さと、栄養価の高い深層水を多くの人に知ってもらいたい。健康に気をつけている人にぜひ飲んでほしい」と話している。

らうす海洋深層水は1999年に設立。関東圏を中心に飲料水を販売するウォーターポイントと15年近く取引しており、同社の販売網を生かして深層水と羅臼昆布の良さを広めようとしていた。

昨年3月1日から共同で開発に取り組んでいた。

500mlのペットボトル入りで、324円。全国のドラッグストアや高級スーパーで販売する。将来的にタイなど海外でも販売する予定だという。また、硬度の数値を「中硬水」と呼ばれる150に抑えた飲料水「laus+」(ラウス+)も近日中に販売する。詳細はラウスプラスのホームページ(<http://laus.sinetok.co.jp/>)へ。

超硬度 キレある海洋深層水

飲料水「ラウスプラス」開発



ラウスプラスを手にするらうす海洋深層水の宗形卓社長

豊漁祈り網 秋サケ定置

【標津】根室海峡に面する標津町沿岸で9月から始まる秋サケ定置網漁に向けて準備が盛んに行われている。網を地面に広げたり、クレーンでつり上げたりして破損した網の目やほころびを丹念に補修する作業が続いている。

定置網漁は手網、胴網、落とし網の三つの網を組み合わせて行われる。サケは海側の手網に沿って胴網に引き入れられ、最終的に落とし網に入った魚体が捕獲

